

欲望の資本主義2019

NHK BS1 スペシャル「欲望の資本主義2019～偽りの個人主義を越えて～」を見た。昨年来継続されているシリーズの第3弾である。

「ネット界の四天王」と呼ばれる GAF A を巡る議論がまずこの番組の主題である。その強大な力に、世界の中で、国家の枠組み前提の市場経済が揺れている。仮想通貨をめぐる議論も沸騰しており、バーチャル経済時代の資本主義はどこへ行くのかが大きな課題として提出されているのだ。

2017年には、現代の資本主義社会の富を生むルールの変化を捉え、世界の中でまたは国家の中で経済格差が広がっている現代社会のひずみの根底を考察し、さらには、2018年には、社会構造に地殻変動が起きている現実を考察してきたことを指摘し、次のステージに考察を転換するため、テクノロジーが社会を変える今、格差、分断を越え自由への道はどこにあるのかや、切迫感をもって問いかけていたのが印象的であったが、今回は、人間の自由の形と資本主義の行く末について、宗教・貨幣・帝国主義等から、その力の構造をとらえながら、資本主義の問題の本質に迫っていた。

人間として生きる上での、存在としての自由とは何かを常に問いながら、すべての悪を否定するとすべての善も否定することになることや、制度としての資本主義の登場から、その制度を利用した富裕層をより裕福にするベクトルの進行と、実質的な市場の在り方と合理性・効率性と自由とのかかわりについて語ろうとすればするほど、制度としての資本主義は、人間の欲望を基軸とした部分の脆弱性を抱えており、「ヒトはおろかで弱い」という究極的な真実のみが明らかになる。

今後の、社会や資本や経済や自由の在り方はいったいどのように変化するのか、パラダイムそのものの大変換も踏まえて、考察すべきことはたくさんある。

指針となる基本的な立つ位置を決定する哲学は、「行き先を決めるのは、欲望の星を生きる私達である。」とのみ語っても、その答えを見つけることはまだできない。

目の前の大学進学もさることながら、こんな問題についての正解のない課題意識をずうっと持ち続ける学問を希求する学生のありようが、とても大切であることは言うまでもないことである。

磐城高校生の諸君も、大きな俯瞰的な視点と虫のような複眼的視点によって、この先何をどうするかをの視点をバランスよく持ち続けてほしいと心から願うところである。